

時間割番号／Registration No.	G2066		
授業科目名／Course Title	中等教科教育法Ⅰ（美術）		
授業科目名英語／Course Title	Teaching Methods in Fine Arts for Secondary EducationⅠ		
担当教員名／Instructor	竹内 晋平		
単位数／Credits	2		
授業の方法／Type of class	講義		
更新日／Date of renewal	2020/04/13		
Cuffet 項目／Cuffet	（学校教育教員養成課程）	41	授業等の実践一計画
到達目標／Course Goals	中学校美術科および高等学校芸術科（美術）の目標・内容を理解し、楽しい美術科授業を構想するために必要な要素を考察した上で、題材開発を行うための教育実践力を身につける。		
授業の概要／Course Objectives	楽しい美術科学習の指導に必要な方法・題材についての知識・技術を習得するとともに、演習を通して理論に基づいた題材開発を行う。		
授業計画（内容と方法）／Class schedule	<p>第1回：オリエンテーション・授業のねらい</p> <p>第2回：中学校および高等学校における美術科教育の目標（学習指導要領の講読）</p> <p>第3回：中学校および高等学校における美術科教育の内容（学習指導要領の講読）</p> <p>第4回：美術科学習における主体的、対話的で深い学びの実現（学習指導要領の講読）</p> <p>第5回：リフレクションタイム①（美術科教育のアウトライン）</p> <p>第6回：「つくることを通して学ぶ」①（表現題材の導入）</p> <p>第7回：「つくることを通して学ぶ」②（全体指導）</p> <p>第8回：「つくることを通して学ぶ」③（板書・ICTの活用）</p> <p>第9回：「つくることを通して学ぶ」④（個別指導）</p> <p>第10回：「つくることを通して学ぶ」⑤（学習評価）</p> <p>第11回：リフレクションタイム②（表現題材のアウトライン）</p> <p>第12回：「みることを通して学ぶ」①（鑑賞題材の導入）</p> <p>第13回：「みることを通して学ぶ」②（板書・ICTの活用）</p> <p>第14回：教員養成実地指導講師による特別授業</p> <p>第15回：リフレクションタイム③（鑑賞題材のアウトライン）</p>		
テキスト、参考図書、教材等／Textbooks	<p>〈テキスト〉</p> <p>中学校学習指導要領解説美術編（文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説美術編（文部科学省）</p>		
評価方法／Evaluation	<p>1. 授業内課題：40%</p> <p>完成作品、および授業内での記述課題等によって評価する。</p> <p>2. レポート：40%</p> <p>レポート（作成方法・期日等は授業内で連絡する）によって評価する。</p>		

	<p>3. 授業への取り組み：20% 話し合い活動等への参加姿勢，自発的な学習（準備・後始末も含めて）への取り組み方等によって評価する。</p> <p>4. その他 良好な出席状況を前提として評価を行う。</p>
<p>準備学習・時間等 ／Preparation Learning</p>	<p>【事前課題（休講期間中）】 竹内晋平研究室 WEB サイト (http://takeuchi-lab.net/) 内の「オンライン授業」にアクセスし，本授業科目の事前課題を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「準備中」の場合は，後日アクセスしてください。 ・「なし」の場合は，現時点での事前課題はありません。休講期間が延長された場合に事前課題を設定する場合がありますので，随時確認するようにしてください。 ・課題の連絡や提出には学内メールを活用します。定期的に学内メールを確認しましょう。 <p>【一般的な準備学習・時間等】 中学校学習指導要領（美術），高等学校学習指導要領（芸術科・美術）を概観し，中学校（高等学校）美術科学習のイメージを形成しておきましょう。 （各週の準備学習時間：90分程度）</p>
<p>実務経験のある 教員等による授 業科目 ／Courses taught by teachers with practical experience</p>	<p>本授業は、以下の実務経験のある教員により、実務経験を生かして実施します。 担当教員／Teacher in charge</p>
<p>受講上の注意， メッセージ等 ／ Caution, Message</p>	<p>「美術の授業で与えられた課題だから，えがく・つくる」というだけではない，楽しい表現活動のあり方を考えたいと思います。そのためには，自分自身が「楽しい」と考えた題材を生徒に向けて客観的に示すことも必要となります。みんなでアイデアを出し合いながら，「楽しい美術の時間」を創造しましょう。</p> <p>※ 実技を伴う日は汚れても差し支えない服装等を準備してください。 ※ メールアドレス： shimpei@cc.nara-edu.ac.jp</p>